

39 名護親方と

具志頭親方（イ）

名護の親方とですね、具志頭の親方はですね、具志頭親方という人はですね、首里の按司のですね、賀さん。娘の賀さんであつてですね。その人を勝手にさしてあつたらしいですがね。そして、本当は具志頭親方より名護の親方のほうは頭が上であるわね。やつぱしあの人は賀さんだがね、あの人に頭上がらなくてですね、していただきますよ。

その人はですね、名護の親方が頭がとても秀でてたから、具志頭親方が憎んでですね、それは安全なほうに嘘をついてさ。この人は、首をはねるちゅうようなことで。

して、それからあれですよ、今、クワン浜（浦添市小湾）といつてですね、ここはあの当時の死刑場だったらしいですよ。死刑。こういうことをするのは、向こう行つてですね、死刑するところやつたらしいですよ。

と怒つたらね。その名護の親方は頭がいいから、按司様にですね、

「これは来年がね、来年が豊作するために、その具志頭親方が八分を、その入れ物の八分を入れて持たせてあるけどね、それをいっぱいしてですね。こぼれたのは来年、迎える年がとても豊作で、豊作になるのをです、で、これはあふれております」と言つたらね、

「ああ、そうか」と言つてね、結構頭はいいから。それ通してあつたんですがね。

それからその人は、名護の按司はですね、人の脈から何してですね、

「何も当てる。医者もできる、何もできる」と言うたらしいですね。そしたら、それわかんと言つたもんだからね、それを完全に言うてね、首にさせるつもりですね、その鼠ですね、鼠。最初はその、王様にですね、あれでしたよ、首里王はその。

「あんたの脈はですね、その、捕まえなくつてもね、紐で括つてもね、その見えないところでもわかる」ちゅうんだから、

「さしてみましよう」ちゅうてですね、やつたらしい

あれは惜しいことにですね、その、本当の話だったんですがね。具志頭親方がね、その名護の親方をね、どうして死刑与えるかということ、理屈ばつかししておつたそうですね。して、もうあれですよ、百姓から上納を取つてですね、その、豆なんかするのをですね、やつぱし味噌をですね、味噌なんかこうして入れ物に入れてですね、按司のほうに上げるんですね。上げる時にですね、最初の話ですよ。その入れ物に、味噌だからね。豆腐もおんなじでしょう。それに入れるでしょう。味噌入れたのを持って行く時に、あれでですね、味噌はわくんだから、そばに流れるらしいです。それをいっぱい持たしてですね、これしたら、無礼者だといつてですね、失礼になるから、首にするつて。それにこの名護親方がですね、いっぱい入れてね、

「おいしいねえ」とか言つて持たしたらいいですよ。それ、按司に上げたですよ。それはもう垂れるんですよ。それをあの、無礼者と言つて、首にするつもりでやつているけどね。その名護の親方、頭がいいからね。その按司がね、

「なぜこの味噌はね、何でこんな入れ方してあるか」

ですね。だから、そうなたから、「あんたはまあ、これわかるか」と。

「わかる」

「じゃ、私は見えないところにね、紐で括つておくんだから、やつてみなさい」つて。やつたらですね。その具志頭親方の理屈ですね、理屈してですね、馬の脚に紐を掛けてさ、ずっと遠いところで診せたらですね、

「どんなもんだ。按司の、王様の脈はどんなもんだ」と問うたらですね、

「これは人間じゃないよ。この按司は人間じゃないよ」という話ですね。したらね、按司に、

「これは人間じゃない、動物であるちゅうことを言うから、首を切つてしまえ」言うたらですね。按司に、

「こういう王様、

「あんたの脈は、名護の親方はそれ人間じゃないと言つたんですよ。これはもう首にしたほうが、死刑にしたほうがいいじゃないか」と言うたら、

「そう言うたか」と。

「そう言うたんです」

「そうだったあれば、うちの馬のね、足首であつて、

うちの脈じゃなかったよ」と。

「おお、よくわかる」ってね、按司は言いおつたらしいですね。

それもこれと二つですよ。もう一つは、これはもう、首にさせようと思ってね、したら鼠ですね、鼠を箱に入れてですね、箱に入れてさ。

「これ何匹入ってるつちゆうことわかるか」と言ったらですね、言うたら、具志頭親方が箱に入れてよ、したら、

「わかる」と言つて。

「これは鼠何匹入っている」

「これあの、四匹入っている」と言うたらしいですね。早くこれは按司に言うておりますね。これはあの、うちが鼠入れたんだから、入れているのは一匹しか入っていない箱にね、四匹おるといふんだからね、これは嘘だから、早く死刑にしないさ」と言つて。したらですね、その、馬に乗せてですね、クワン浜（小湾浜）に、家来たちに目を、あれしてですね、白いのにこうしてですね、死刑にやったらしいですよ。

したらその、箱はですね、按司のほうが開けて見た

らですね、その、妊娠している鼠はですね、一匹入れたのがね、子を産んで四匹になっていました。本当に四匹いるからね、

「早くあれは戻さない。あれはもう死刑やらなくていいんだから、当てたんだから、早く連れてこい」と。ちよつと向こうの、首里の物見ですね、ここから、早く連れてこいというのを、早く死刑やりなさいということを、切つてしまつてですね、なんしたちゆうことです。

字米須 仲宗根善道